通潤用水と白糸台地の棚田景観

所在地：熊本県山都町　　選定年月日：平成20年7月28日、平成21年7月23日追加、平成22年2月22日追加
面　積：605.6 ha　　選 定 基 準：二(一(一)(五)(七))

（1）概要

山都町(やまとちょう)は九州の中央部に位置し、世界最大のカルデラである阿蘇南外輪山のほぼ全域を占めます。町域の南側は九州中央山地に接し、有明海につながる緑川が東西に貫流しています。緑川以北の地質は阿蘇火砕流堆積物が主で、外輪山山頂を水源とする小河川の浸食により、火山性丘陵が形成されています。

山都町の中心地である浜町の南方に位置する白糸台地はこの一つであり、四方を河川に囲まれ、特に南側は緑川に面していることから、古くから河川を利用した流通・往来の中心地として栄えるとともに、農業用水に困窮する地形条件から、近世後期において通潤橋を伴う大規模な基盤整備事業を実施することとなりました。

「通潤用水と白糸台地の棚田景観」は、流通機能において、結節点として重要な場所であったことを示す様々な痕跡を残しつつ、通潤用水とこれに伴う棚田が、造成時期の原形を保ちつつ、農耕活動が現在に至るまで継続することにより維持されてきた重要な文化的景観です。

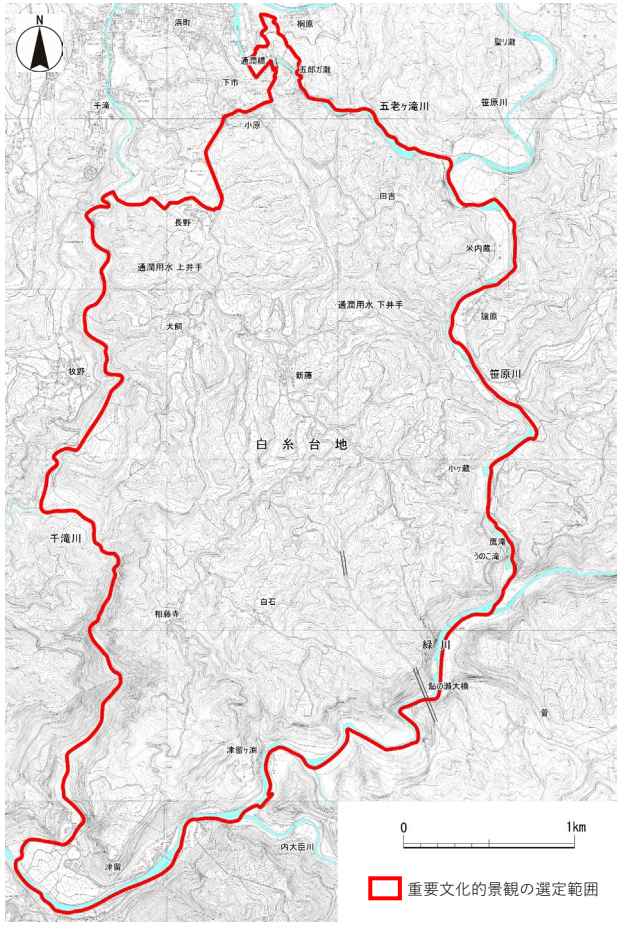
通潤橋

10号水路周辺の棚田

11号水路の棚田

素掘りの12号水路と分水吐

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：9件
- 国指定等文化財：通潤橋((国宝（建造物))、御小屋(建造物 附)、肥後領内名勝地 五郎ガ瀧(名勝)、緑川水運 (歴史の道百選)

（3） 選定による効果

選定を契機に地元組織である白糸第一自治振興会が主体となり、地域づくりの取り組みが活発となりました。平成24年に全国棚田サミットの会場となり、来訪者の受け入れ体制を整備し、以降「棚田ウォーキングと収穫感謝祭」を年1回開催しています。また、米の高付加価値化にあたり、出荷基準を設け、協議会組織を立ち上げるなどのブランド化が進められました。平成28年熊本地震、その後の豪雨災害で大きな被害を受けましたが、棚田や水路などの復旧作業に町外よりボランティアを募る取り組みを進め、繰り返し地元を訪れる方々と親交を深める体制も整備されています。

地元住民による水路のガイド
（平成24年棚田サミット時）

初めて開催された棚田ウォーキング
（平成25年11月）

（4）保存活用計画などの基礎情報

- 通潤用水と白糸台地の棚田景観保存計画(平成20年3月、山都町)※ 調査報告書を含む。
- 通潤用水と白糸台地の棚田景観整備活用計画(基本理念編)(平成27年3月、山都町)
- 通潤用水と白糸台地の棚田景観整備活用計画(通潤橋・五郎ガ瀧周辺域編)(平成28年3月、山都町)

（5）活用事例

事例43-01 ① なりわいと豊かな自然環境を未来につなぐ、水路整備といきもの観察会

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

棚田を巡る水路内には、希少種である淡水魚アブラボテのほか、水田域に生息する多様な水棲昆虫や両生類が確認されており、定期的な水路の管理作業が継続することで生息環境が維持されていることから、重要文化的景観の価値を伝える重要な構成要素とされています。

選定後の取り組みの端緒となったのは、通潤用水下井手の整備です。整備は、生物多様性と管理機能の向上を両立させた「近自然工法」が採用され、文化庁の補助を得て行われました。

整備後は、地元団体をはじめ町内の自然保護団体、大学と協働で自然観察会を開催しています。自然観察会では、参加者である子どもたちが水路に入り、様々ないきものを捕まえ、水槽に入れていきます。このことが水路内の環境をモニタリングにもなり、選定範囲内の豊かな自然を体験できる効果的な機会となっています。この取り組みは、平成24年から始まり、コロナ禍による中断をはさみ、本年も開催されています。

✓ 土木学会デザイン賞 優秀賞（平成26年）

関係者の声（矢部郷自然観察会 会長）
「通潤用水の生き物たち観察会」は「ふるさとの自然を知る」、「ふるさとの自然から学ぶ」、「豊かで貴重な自然を未来に残す」という会の目的にあった取り組みと考えています。

通潤用水下井手11号水路の整備前・整備直後・現況。軽トラックが侵入できるようになった(写真手前)

水路内で撮影されたアブラボテの稚魚（平成26年）

捕まえたいきものの説明

水路内で子どもたちが採取したいきもの

団体等情報：
矢部郷自然観察会(会員数53名、年間活動回数7回、機関紙発行数7回(令和4年度実績))
九州大学大学院農学研究院 アクアフィールド科学研究室(九州大学附属水産実験所)
https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/jikkensho/onikurafield/onikura-top.html

（5）活用事例

事例43-01 ② 過去から未来へにつなぐ、住民主体の活動が紡ぐ「通潤橋水ものがたり」

●住民や団体等による取り組み

江戸時代末期、地元の民衆による事業運営により通潤用水が建設され、現代まで棚田が形成されてきた歴史を持つ当地では、今日も様々な住民主体の取り組みが行われています。

通潤用水の受益地である9地区からなる「白糸第一自治振興会」が主体となり、「通潤用水と棚田を活かした地域づくり」を実践しています。その内容は、生産面や交流活動、女性の活躍、企業のCSR活動との連携、町内有志による絵本の出版など多岐にわたります。米のブランド化は、品質の均一化と販路の開拓を二本柱に進められ、令和3年度までに年間平均5トンを出荷し、農家の手取りベースで以前より1.5倍増の価格となっています。

平成28年熊本地震、同年の6月豪雨により、白糸地区は大きな被害を受けました。翌年春に棚田の再生と中山間地の農業を維持し、棚田景観を守ることを目的とした「山都町棚田復興プロジェクト」を設立しています。町外からボランティアを募り、小規模農地や水路などの復旧に大きく貢献し、域外との息の長い交流につながっています。この取り組みは、白糸地区にとって今後の営農持続と景観保全に欠くことのできないものとなっています。

✓ 農林水産祭むらづくり部門農林水産大臣賞 天皇杯(令和3年度)

✓ 熊日出版文化賞、熊日マイブック賞

白糸台地の棚田米「通潤橋水ものがたり」

ボランティアによる農地の復旧作業

ボランティアによる水路の除草作業

絵本「通潤橋 水が渡る橋」
（町内有志による出版）

団体等情報：山都町棚田復興プロジェクト
https://www.facebook.com/yamato.tanada.project?locale=ja_JP
白糸第一自治振興会(平成18年設立。10部会で構成。世帯数174戸うち農家80戸)